

参加
無料

博物館 - 公民館連携の可能性を探る

KATARIBA

カタリバ

Part 1 いま知りたい、公民館のコト

公民館と博物館という同じ「社会教育法」の元にながら接点が少なかった双方からの自由な言葉が行き交う「KATARIBA」を開きます。

公民館は人を介して、集いの場づくりや学びの支援を行うと言われています。一方で公民館には、地域から寄せられた古い資料や写真、イベントやワークショップを通じて住民とつくる成果物、公民館を拠点に活動している地域の団体が発行する冊子など、多様な文化資源が集まります。これらの中には地域資料として貴重なものや、「まち」のアイデンティティを形作るのに役立つものも少なくありません。地域に散在するこれらの資料の活用（デジタルアーカイブなど）を通して、どのような可能性が開けるのでしょうか。ともに語りましょう。

Program

趣旨・背景説明 (10分)

二宮 聡

九州大学総合研究博物館
事業コーディネーター

三島 美佐子

九州大学総合研究博物館 教授

話題提供 (15分)

岡 幸江

九州大学人間環境学研究院 教授

話題提供 | 各公民館より (30分)

内浜公民館 主事 吉村 千恵

赤坂公民館 主事 中村 留美子

箱崎公民館 主事 玉利 麻由美

質疑応答・意見交換 (30分)

ふりかえり | 次回にむけて (5分)



2024. **11.25** Mon.
オンライン開催 / 19:00-21:00

対象 / 博物館・公民館の従事者はじめ、
本テーマに興味ある方なら どなたでも

定員 / **50名** [先着順]

ご参加は無料です。事前申込の上、ご参加ください。

申込
方法

QRコードを読み取り、
webフォームからお申し込みください。



KATARIBA 話題要旨

岡 幸江 九州大学人間環境学研究院 教授

「公民館とは -その活動とアーカイブ化の意義」

戦後日本社会の地域社会とともに歩んできたのが公民館です。そして地域の人だけでなく情報も集う場でもありました。残念ながら公民館の側でも、公民館におけるアーカイブ化について十分議論や実践の蓄積がありませんが、地域公民館とアーカイブ化はとても相性がいいように思えます。当日はその可能性について考えてみたいと思います。

吉村 千恵 内浜公民館 主事

「ブラ公民館

-オンライン活用による区をこえた公民館連携事業」

福岡市内の公民館が区を越えて繋がり、様々なテーマで学びの場を住民と一緒に作る事業です。オンラインとリアルで開催する、ワクワクドキドキできる新しい時代へのチャレンジとなっています。今回はそのエッセンスをご紹介します。

中村 留美子 赤坂公民館 主事

「公民館が創るアーカイブ

-歴史資産の今後の活用の可能性」

～元寇、太閤道、黒田のお殿様～歴史が地域で息づいた時の感動を、未来の誰かのためにつなげたい。そんな思いを共有します。

玉利 麻由美 箱崎公民館 主事

「あったらいいな -夢のDX・DA」

公民館が取り組んでいる事業の記録をアーカイブ化し、どの公民館からも検索できるようにすることで、事業の幅が広がると共に、より住民のニーズに寄り添った事業の提案ができるのではないのでしょうか。また、同じ要領で、地域の各種団体の事業をアーカイブ化することで、より地域に貢献できるようになるかもしれません。

令和6年度文化庁 Innovate MUSEUM 事業 「地域共創協学デジタル化事業」とは

本事業では、大学移転跡地の大規模開発に伴い変容しつつある「箱崎」という「まち」をケーススタディーとして、地域の既存の有志団体が収集・保管してきた資料やまちの記録をアーカイブすることを目指します。変わりゆく「まち」の記憶を掘り起こし残していくことのみならず、そのアーカイブを活用し、市民の皆さんが地域について更なる発見・探究・発信をしていく一助となることを目指します。

詳細はwebサイトで
ご確認くださいませ >>



九州大学総合研究博物館とは

2000年創立。九州大学の学術資料の収集・保存・継承を担い、それらを用いた教育・研究を実施。箱崎サテライトに常設展示室、伊都キャンパスにフジイギャラリーを持ち、九州大学の学術標本資料や研究成果を展示・公開しています。

webサイト開設予告

「HAKOZAKI BASE」

「HAKOZAKI BASE」は、福岡市東区箱崎とその周辺エリアの地域文化資源を収集・発信する、いわば“オンラインミュージアム”です。様々な情報をつなげ、閲覧者の多様な学びや創造を支援することを目指しています。主な構成は、地域文化資源のデジタルアーカイブ「HAKOZAKI ARCHIVE」と、地域の口伝やデジタルアーカイブを利用した地域情報を掲載する「HAKOZAKI MAGAZIN」の2つです。また、ネット上に散在する地域の文化資源情報を集めて閲覧できるようなポータルサイトも組み込む予定です。